

川田

桃叶

さん 玉戸出身
高校3年生



茨城県高等学校ソフトテニス大会春夏連覇
ハイスクールジャパンカップ全国17位
ケガを乗り越え日本最高峰の大会へ
高校生ソフトテニスプレーヤーの挑戦



何にも負けない
諦めなければ努力は報われる

第52回コーセン杯争奪
ハイスクールジャパンカップソフトテニス2023

人見知り、でも誰にも負けたくない

「小さい頃は、人見知りで慎重派。周りの状況や人をよく観察していた。それで相手の動きやボールが飛んでくる位置を予測できるようになったと思う」と笑顔で話すのは川田桃叶さん。小学5年生の時にラケットを初めて握り、そこからテニス人生が始まります。

ケガとテニスに向き合った1年間

持ち前の負けん気と運動神経の良さを活かして、広い守備範囲と攻めのプレイスタイルで強敵に打ち勝ち、高校1年生で県大会3位になりました。しかしその冬、全国大会出場にあと一步の試合で、左前十字靭帯断裂の大ケガを負い、立つこともできず、やむなく試合を棄権。医師から一年間の治療を余儀なくされました。ケガの影響は想像以上に大きく「復帰後、今までどおりのプレイができるのか。また同じケガをするのではないか」と不安がよぎり、テニスを続けるか引退するかの家族会議を開いたこともあったそうです。

そんな時に川田さんを救ったのが、コーチやテニス仲間の存在でした。「テニスができない私を励まし、見守ってくれた。辛いリハビリを乗り越えて、期待に応えたい」。もう一度テニスプレイヤーとしての道を歩むことを決意しました。



テニスで恩返し

高校2年生の冬に復帰し、テニスができるありがたみを感じながら、厳しい練習に打ち込みました。高校3年生になると、春夏の県大会を連覇、各県の一位が出来るハイスクールジャパンカップでは全国17位に。インターハイを含めた数々の大会を勝ち抜き、国内最高峰の大会「天皇賜杯・皇后賜杯全日本ソフトテニス選手権」の出場を決めました。

「あのケガがあったから本気になれたし、覚悟もできた。誰よりも私を気にかけてくれたコーチと一緒に出場できることが、とても嬉しい。両親をはじめ支えてくれた人たちに少しは恩返しできたかなと思う」と川田さんは笑みを浮かべます。感謝の気持ちを忘れず、茨城県代表として最後まで後悔のないようにがんばりたいと、皇后賜杯に向けて川田さんは今日も汗を流します。

